（1） 主題名　時間を守る　〔中学校　１－（1)〕　　関連項目　〔１－（3)〕〔４－（6)〕

（2） ねらい　時間を大切にするとともに，日常生活において必要な基本的生活習慣を，進んで身につけようとする態度を育てる。

（3） 資料名　「古びた目覚し時計」（出典：１自分を見つめる　暁教育図書）

資料の概要

筆者の父が，中学生のころ，自覚して生活規律を確立していく過程を我が子に語って聞かせる資料である。父の中学生のころの心情を，生徒一人一人に感じ取らせながら，望ましい生活習慣について考えさせることができる。

（4） 学習指導過程

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1　自分自身の日頃の生活習慣を振り返る。	○自分自身の日頃の生活習慣において，家でよく注意されることを思い出して発表しよう。 ・早く起きなさい　・早く寝なさい　等 ○朝どうやって起きますか。 ・親に起こしてもらう　　・自分で起きる	○深入りせず,時間をかけすぎない。
展開	2　資料を読んで，人物の心情を考える。 3　「心のベル」について班で話し合い，発表する。	○資料「古びた目覚し時計」を読もう。 ・自分の場合と比べながら聞く ○「朝寝坊」の場面をグループごとに再現しよう。 ・　「朝」の場面をイメージする ○「もうすぐ中学生になるのに一人で起きられないのか」と叱られた時の昭夫の気持ちはどんなだっただろう。 ・おばあちゃんが起こしてくれないからだ ・起きられないんだ，仕方ないじゃないか ○新しい目覚し時計を買ってもらい，約束した後誰も起こさなかったのはなぜだろう。 ・自分で起きられるようになってほしい ・自分で起きると約束したんだから，責任を持ってほしい ○自分で起きようと決心したのはなぜだろう。 ・人に頼ってばかりではいけない ・約束はきちんと守らないといけない ◎壊れた目覚し時計は今もベルを鳴らしているといっているが,「心のベル」とは何だろうか。 ・時間の大切さを教えてくれたもの ・自分を自覚させてくれたもの	○目覚し時計のベルを効果音に使用する。 ○会話部分だけを,役になりきって読ませる。 ○自分本位の感情で親を責める気持ちや腹立たしい気持ちに共感させる。 ○早く自立してほしいという親の願いと,子どもに対する親の愛情を感じ取らせる。 ○昭夫の心の変化に気付かせる。 ○規律ある生活をするための心構えがあるか自分自身を振り返らせる。
終末	4　自分の今後の生活を考える。	○自分の生活習慣について振り返り，今後の生活で心がけようと考えていることを，「道徳ノート」に書いてみよう。 ・自分の力で起きるようにする ・時間を大切にしたい	○今後の生き方に役立てるために自分はどうするかをさぐらせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は,「遅刻」の問題を通して，両親に頼りがちであった自分を反省し，自らの生活を見直すことによって，節度と調和のある生活習慣を確立していく内容である。昭夫の気持ちや心の動き，それを見守る両親の気持ちに視点を当て,「なぜ, 古びて壊れた目覚し時計を宝物としているのか」を深く考えさせるとともに,「心のベルはみんなの中にもあるだろうか」「それを鳴らすのは誰であるのか」を追求する。それによって，自らの生活を振り返らせ，よりよい習慣を身に付けるためには，自らの意志や努力が重要であること，充実した人生を送る上で欠くことのできないものであることを自覚させ，ねらいに迫りたい。

２　指導過程の工夫

導入で自分自身の生活を振り返らせ，家でよく注意されることは時間に関することが多いことを確認させる。その上で「古びた目覚し時計」を効果音入りで読み，自分自身の生活とだぶらせる。また,「朝寝坊」の場面をグループごとで再現することによって，より身近な問題としてとらえさせる。さらに，昭夫や家族の心情を読み取っていくことで,「心のベル」とは何かを探り，よりよい生活習慣を身につけようとする意欲につなげていこうとした。

３　発問の工夫

「家でよく注意されること」を発表させることにより，普段の生活に思いをめぐらさせた。さらに,「朝寝坊の場面をグループごとに再現しよう」では，よりリアルに自分たちの生活を見つめ直すきっかけとした。そして, 昭夫の言動・心情に沿いながら「壊れた目覚し時計は今もベルを鳴らしているといっているが，心のベルとは何か」という中心発問へともっていった。「みんなには心のベルがあるか」という切り返しの発問によって，自分の生活習慣を振り返らせ今後の基本的生活習慣を考えさせた。

４　生徒の反応

昭夫と同じように，家族に朝起こしてもらう生徒が多かったので，身近な問題として取り組むことができた。また，目覚し時計のベルを効果音に使用することで興味付けとなった。さらに,「朝寝坊」の場面の再現を取り入れて，昭夫の気持ちを考えさせたのは効果的であった。そのため，時間を大切にしようとする意識が高まり，今からの生活で大切にしていかなければいけないことも考えさせることができた。授業後の感想文にも「朝一人で起きれるようにしたい」とか「時間を大切にして遅れないようにしたい」といったものが多かった。

５　授業後のフォローアップ

「生活ノート」の生活時間を毎日見ることによって，生徒の実態を見ていく。また，学校生活の中でも，時間を意識して行動ができているかを全教職員でとらえていく。時には，折に触れ，学級活動や生徒会の生活委員会等でも取り上げて考えていきたい。

（豊栄中学校）